

# 事業活動を通じて 社会の持続可能な発展に貢献します。



## お知らせ

> 一覧

- 2015年7月10日 2015CSRウェブサイトPDFを掲載
- 2015年7月10日 グループや各工場の環境データを公開
- 2015年6月10日 CSRウェブサイトを更新

## > CSR の考え方と基本方針

CSR についての考え方や  
その基となる理念体系について  
ご紹介します。



### お客さま

お客さまに感動を伝える  
モノ創り企業を目指して

リコール情報はこちらをご覧ください



### 株主・投資家

株主・投資家の皆さまとの  
コミュニケーション



### 従業員

グローバルな視野から  
価値を共有できる組織づくり



### 取引先

協働と公正の精神に基づく  
グローバル調達・販売ネットワーク



### 地域・社会

地域・社会との絆の中で  
感動を創造・共有するために



### 地球環境

地球環境と調和し共存する  
持続的な成長の実現を目指して

## > コーポレート・ガバナンス



社会から信頼され、規範となることをめざして

倫理行動規範 (PDF)

コーポレート・ガバナンスに関する基本  
的な考え方や体制はIR情報のページへ

## > アニュアルレポート2014



冊子版ダウンロード  
バックナンバーはこちら

> ISO26000 対照表

> アンケート

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団

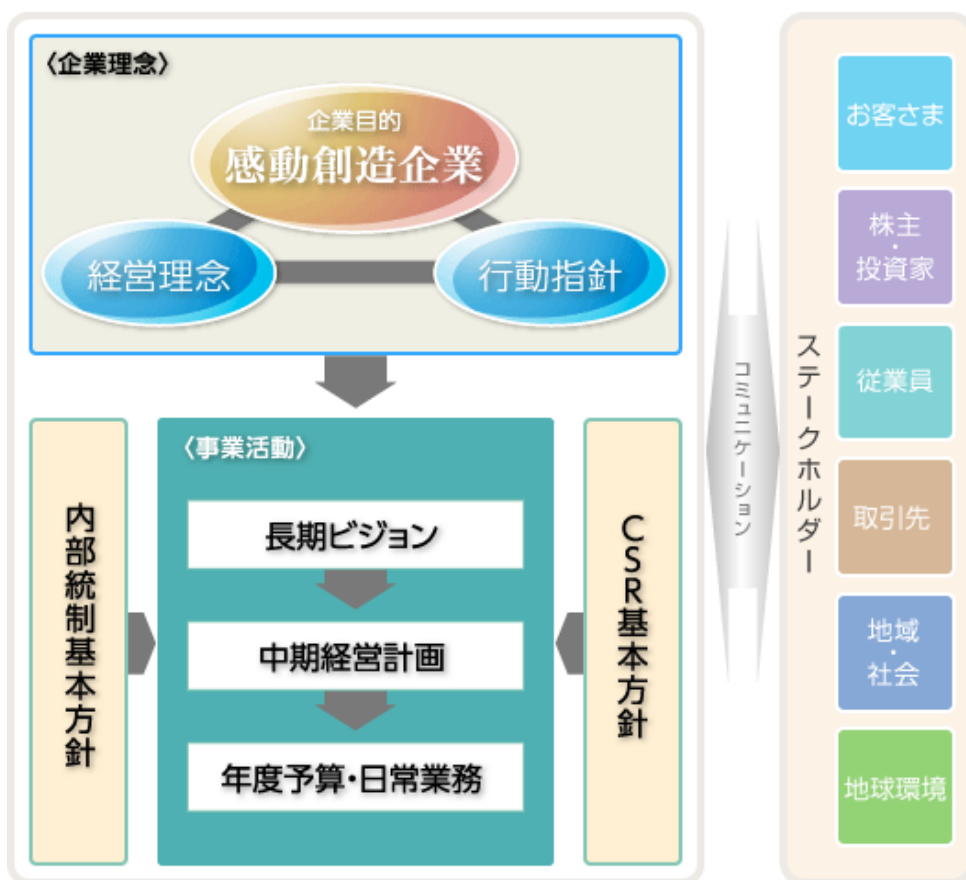


## CSRの考え方

ヤマハ発動機では創業以来、「社訓」に“企業活動を通じた国家社会への貢献”を謳い、この精神に基づいた従業員一人ひとりの行動を通して社会に貢献することを掲げています。

そして、「感動創造企業：世界の人々に新たな感動と豊かな生活を提供する」ことを企業目的として、「モノ創り」を通じて多様な価値の創造に努めてきました。また、経営理念においては「顧客の期待を超える価値の創造」、「仕事をする自分に誇りが持てる企業風土の実現」、「社会的責任のグローバルな遂行」というお客さま・従業員・社会に対する経営の基本姿勢を示しており、企業目的と経営理念、さらに実践における行動指針の3点をもってヤマハ発動機グループの企業理念としています。

ヤマハ発動機グループでは、ステークホルダーへの主な社会的責任をCSR基本方針としてまとめており、企業理念に基づく事業活動を通じて社会の持続可能な発展に貢献することが、私たちに期待されているCSR（企業の社会的責任）と考えています。



## CSR基本方針

ヤマハ発動機グループは、社会からより信頼される企業として、国内外の法令ならびにその精神を遵守するとともに、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを大切に、企業理念に基づく事業活動を通じて、社会の持続可能な発展に貢献します。

取引先においても、この方針の趣旨を支持し、それに基づいて行動することを期待します。

お客さま	<ul style="list-style-type: none"><li>安全で高品質かつ革新的な製品とサービスを通じて、世界の人々に新たな感動と豊かな生活を提供します。</li><li>製品に関する有益な情報を分かりやすく提供します。</li><li>お客さまをはじめ事業活動にかかわる人々の個人情報保護の徹底に努めます。</li></ul>
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"><li>長期安定的な成長を通じた企業価値の向上をめざします。</li><li>事業・財務状況と成果の適時かつ適正な開示を行います。</li></ul>
従業員	<ul style="list-style-type: none"><li>均等な雇用機会を提供し、従業員の多様性を認め、差別を行いません。</li><li>公正な労働条件を提供し、安全かつ健康的な労働環境を維持・向上するよう努めます。</li><li>人権を尊重し、いかなる形であれ児童労働・強制労働は行いません。</li><li>従業員と会社が、相互信頼に基づき、誠実な対話と協議を行い、お互いに繁栄するよう努力します。</li></ul>
取引先	<ul style="list-style-type: none"><li>調達先や販売店などの取引先を尊重し、相互信頼に基づき、長期的視野にたって相互繁栄の実現に取り組みます。</li><li>調達先の決定にあたっては、国籍や規模にかかわらず広く世界に門戸を開き、総合的な評価に基づき判断します。</li><li>各国・地域の競争法を遵守し、公正な取引を維持します。</li></ul>
地域・社会	<ul style="list-style-type: none"><li>各国の文化・慣習を尊重し、企業市民として社会との調和に努めます。</li><li>納税、雇用創出、モビリティ創出などを通じて、健全な地域社会の発展に貢献します。</li><li>人材育成、環境保全、交通安全普及など社会貢献活動を推進し、また従業員の自主的な活動を支援します。</li><li>行政府諸機関との健全かつ公正な関係を維持します。</li></ul>
地球環境	<ul style="list-style-type: none"><li>環境技術の開発を進め、環境と経済が両立した製品の実現をめざします。</li><li>限りある資源を大切に、事業活動による環境負荷の最小化に努めます。</li><li>幅広く社会と連携・協力し、環境保全活動に取り組みます。</li></ul>



▼ リスクマネジメント

▼ コンプライアンスの  
周知・徹底

▼ 輸出入管理

▼ 個人情報保護

ヤマハ発動機グループでは、コーポレート・ガバナンスの強化・確立に取り組むとともに、CSRの推進と社会からの信頼の基盤となるリスクへの対応、コンプライアンスの強化に取り組んでいます。

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方や体制は、IR情報のページをご覧ください >>

## CSRの推進に向けた取り組み

CSRの着実な推進に向けて、ヤマハ発動機ではCSRの考え方を全社員が共有し社員一人ひとりが自らの業務のなかで実践できるよう、主なステークホルダー毎の社会的責任を表したものをCSR基本方針に掲げております。2011年から、経営戦略の推進を担う経営企画部が、ステークホルダーごとに主管となる部門を設定し、各部門の業務計画からCSR基本方針に掲げた項目に合致する主な取り組み実績と課題を「CSR活動計画」として取りまとめ、事業活動を通じたCSRの実践に向け取り組んでいます。

また、2010年11月に発行された社会的責任に関する国際的ガイダンスのISO26000に当社の取り組みを照らし整理することで、当社のCSRに関する活動の参考としております。

## リスクマネジメント

リスクマネジメント体制として、社長執行役員が委員長をつとめる「リスク・コンプライアンス委員会」を設置しています。この委員会は、リスクの洗い出しと評価によって選定された重要リスクの未然防止から発生後対応までの取り組みに関わり、ヤマハ発動機グループの抱えるリスクの統合的な管理を担っています。

また、グループ会社共通の管理手法としてリスクマネジメント規程・緊急時初動対応規程を定め、これらに基づいて、コンプライアンスに関わる不祥事・災害・事故などのリスクの未然防止と早期発見、発現した場合の迅速かつ的確な対応に努めています。

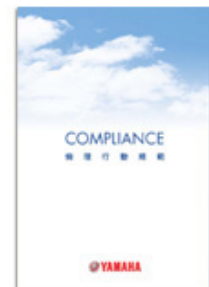
## BCP（事業継続計画）の見直し

予想される南海トラフ巨大地震に対し、被害想定や初動体制、及び復旧対応手順等の明確化等、BCP全体の見直しに取り組んでいます。また、計画の実効性を高めるための初動対応訓練を2012年から実施しています。併せて、パンデミックに備えたBCPの見直しも行っています。



## コンプライアンスの周知・徹底

ヤマハ発動機グループでは、年度計画に基づいた継続的なコンプライアンス活動を展開しています。創業時から受け継ぐ社訓や経営理念を踏まえ、遵守すべき行動基準を定めた「倫理行動規範」の周知徹底をはかるとともに、一人ひとりの業務における実践を促すことで社会から信頼され模範となることをめざしています。



ヤマハ発動機の倫理行動規範

倫理行動規範（PDFが別ウィンドウで開きます）

[http://global.yamaha-motor.com/jp/profile/csr/download/pdf/COE\\_J.pdf](http://global.yamaha-motor.com/jp/profile/csr/download/pdf/COE_J.pdf)

## コンプライアンス・法令教育の実施

ヤマハ発動機と国内のグループ会社では、倫理行動規範の徹底や業務に関連する法令の理解促進を目的に、役職員を対象とした教育・研修を、階層別、部門別に定期的に開催しています。

			2014年度実績
区分・対象			延べ人数
階層別研修	企業倫理 規範周知と理解	役員、基幹職 監督職、一般職	14,936名
法令・ルール研修	集合研修		5,978名
	eラーニング		40,220名

## 内部通報制度（ホットライン）

ヤマハ発動機では、「倫理行動規範」に違反する行為に気付いた場合の通報先や、コンプライアンス全般についての相談や問合せ窓口として「コンプライアンスホットライン」と「ハラスメント相談窓口」を設置しています。「コンプライアンスホットライン」は国内グループ共通の通報・相談窓口になっており、違法行為や不正行為の未然防止と早期発見に努めています。



### 輸出入管理の徹底

ヤマハ発動機グループの事業活動の多くが日本国外での取引に係わるため、日頃から輸出入に関する管理を重視した活動に取り組んでおります。

ヤマハ発動機では、輸出に関する取り組みとして「外国為替及び外国貿易法」などの関連法規の遵守を基本とした安全保障貿易管理の連絡会議や勉強会を、関連部門・グループ会社では定期的・網羅的な教育を実施しています。貿易実務者教育の一つとして、システックアソシエート試験<sup>※1</sup>やシステックエキスパート試験<sup>※2</sup>の受験を推奨し、毎年合格者を出しています。

輸入に関する取り組みとしては、製造等禁止物質<sup>※3</sup>の含有が確認された場合または不使用が確認できない場合は、当該部品等を発注・輸入・譲渡・提供しないための取り組みを継続しております。

※1 「システックアソシエート試験」とは、一般財団法人安全保障貿易情報センター（CISTEC）が実施する安全保障輸出管理の実務能力認定試験です。

※2 「システックエキスパート試験」とは、「システックアソシエート試験」と比較してより高度な実務能力を求める認定試験です。

※3 「製造等禁止物質」とは、労働安全衛生法施行令第16条第1項各号に掲げる物をさします。

[▲ このページの先頭へ](#)

### 個人情報保護への取り組み

ヤマハ発動機グループでは、個人情報保護の重要性を認識し、2003年制定の「個人情報保護方針」に従い、お客様よりいただいた個人情報の適正な管理・保護の徹底を図っています。

プライバシーポリシー

<http://global.yamaha-motor.com/jp/policy/>



▼品質向上への取り組み

▼新たな感動の提供

▼お客さま対応／サービス

▼安全運転普及活動

## お客さまに感動を伝えるモノ創り企業を目指して

お客さまとの関係をより密に続けていくことによって高められるもの、それがヤマハ品質であり、常に全社員が品質の向上・充実の努力を続けなければならないと考えています。ヤマハ発動機グループでは「お客さま基点」の強化とお客さまの声をさらに活かしたモノ創りのために、品質向上に向けた取り組みを継続し、より満足度の高い製品をお客さまにお届けできるように努めています。ここではヤマハ発動機CSR基本方針に掲げているお客さまとの関わりにおいて、重視している取り組みの一部をご紹介します。

### 品質向上への取り組み

台湾のYMTT<sup>※</sup>は、主要取引先39社が参加する品質連絡会議を、台北と高雄で2014年7月に開催しました。会議でYMTTは2014年の品質改善活動の好事例と、品質保証マニュアルについて説明を行いました。YMTTは、各活動の背景と目的を台湾のサプライヤーに十分に理解いただくことに努め、品質向上と顧客満足度の向上を目指すとともに、世界のヤマハ工場に良い品質の部品を供給し続けてまいります。

※YMTT: 台湾山葉興業股份有限公司

### 新たな感動の提供

『TRICITY』は、旋回時にフロント二輪が車体と同調して傾く当社独自の「LMW」（リーニング・マルチ・ホイール）機構を備えた新しいシティコミューターです。それぞれ独立したサスペンションとリンク機構を持つフロント二輪が路面の変化にしっかりと追従することで、石畳や荒れた路面、またタンデム（二人乗車）走行時でも快適な乗り心地を実現します。

より多くの方に親しみやすさを感じていただきたいという思いは、開発のプロセスでも遺憾なく発揮されました。扱いやすい軽量・コンパクトな車体設計（車幅は当社125ccスクーターと同レベル）はもちろん、女性が乗り降りしやすいフラットなフットボードなど、幅広いユーザーの使用を想定した仕様や機能が細部にまで施されています。

世界の都市交通をよりスマートに、より快適に。そしてより楽しく——。ヤマハが提案する次世代シティコミューターのスタンダードが、いまモビリティの世界を大きく広げようとしています。



### お客さま対応／サービス

ヤマハ発動機では、世界18の国と地域から選抜されたヤマハ二輪サービスマン(ディーラー・販売店のメカニック)20名がサービス技術力を競い合う「第6回ヤマハワールドテクニシャングランプリ2014」を開催しました。

ヤマハワールドテクニシャングランプリは、お客さまが世界中どここのヤマハディーラーに出向いても高品質な均一のサービスが受けられることを目的に、“One to One Service (一人一人のお客さまとのより良い関係づくり)”という理念のもと2000年より推進しているヤマハ独自のサービスマン教育プログラム「YTA (ヤマハ・テクニカル・アカデミー)」の一環です。全世界のヤマハ販売店のサービスマンメカニックの技術向上とヤマハグループの意識高揚を図ることで、お客さまにより良いサービスを提供し、かつお客さまの満足度を高めようと世界各地でコンテストを実施しています。

<http://global.yamaha-motor.com/jp/news/2014/1006/wtgp.html>



第6回ヤマハワールドテクニシャングランプリ  
2014

### 安全運転普及活動 – スペインでの子どもたちのイベントに参加

2014年10月、子どもたちのためのヨーロッパで最も大きなイベントが、バルセロナ(スペイン)で開催されました。2日間のイベントで350,000人以上が来場したこのイベントで、YMESM<sup>※</sup>は2歳から6歳の子どもたちのためのトレーニング・エリアのホストを務めました。

バルセロナ市内をオートバイで通勤するメリットを説明したヤマハ・アカデミー・コースを、約3,000人の子どもたちが子ども用の木製自転車で走りました。

※YMESM : Yamaha Motor Espana Marketing S.A.



子どもたちのためのヨーロッパで最も大きなイベントが、バルセロナで開催されました。



## 株主・投資家



ヤマハ発動機では株主・投資家の皆さまに正確かつ適切な情報を適時に提供し、説明責任を果たすために、専門部門を設置して国内外でのIR活動を実施しています。

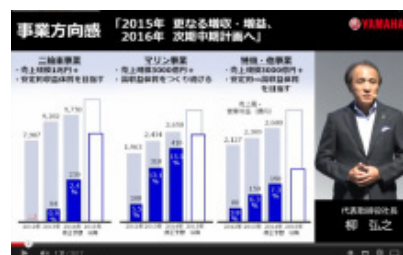
四半期ごとの決算・株主総会に加え、海外の投資家訪問によるIRミーティングや、IR情報のウェブサイトでの開示、個人投資家向けのウェブサイト運営も行うとともに、アナリスト・ジャーナリスト向けに、事業説明会を行い、その模様を動画でウェブサイトに公開することで、より多くの株主・投資家の皆さまが当社経営戦略の理解を深めていただけるよう、情報開示に積極的に努めました。

事業説明会（2014年9月12日開催）資料

[http://global.yamaha-motor.com/jp/ir/report/pdf/2014/Yamaha-motor\\_Business\\_information\\_session\\_jp.pdf](http://global.yamaha-motor.com/jp/ir/report/pdf/2014/Yamaha-motor_Business_information_session_jp.pdf)

事業説明会の動画

<http://youtu.be/sq2AQ0jukzY>



株主や投資家の皆さまに向けた情報は、  
ウェブサイトの「IR情報」で開示しています。

ディスクロージャーポリシー

<http://global.yamaha-motor.com/jp/ir/policy/>

配当方針

<http://global.yamaha-motor.com/jp/ir/shareholder/dividend/>

IR情報（トップページ）

<http://global.yamaha-motor.com/jp/ir/>

# 従業員



▼人材育成／キャリア支援

▼多様性を活かした職場づくり

▼仕事と生活の両立支援

▼職場の安全衛生

心と体の健康の  
▼ためのサポート

## グローバルな視野から価値を共有できる組織づくり

ヤマハ発動機グループでは、グローバルな視野から個人と会社が「高い志を共有し、研鑽しあい、協力しあい、喜びを分かちあう」組織体制を目指し、多様性が尊重される職場づくりを進めています。

### 人材育成／キャリア支援 – グローバル人材育成の推進

ヤマハ発動機は、ますます高まる世界規模でのビジネス展開を踏まえ、国内外グループ会社経営者間のディスカッションによる課題共有の場を設定した上で、海外拠点で採用された社員の現地経営幹部層への登用拡大や、日本人社員の海外経験の加速などを通じ、これまで以上にグローバルに活躍する人材の育成を積極的に進めています。

2014年1月に第2期GEP<sup>※</sup>がスタートしました。GEPはヤマハ発動機グループで将来のリーダーとなる人材の育成と、受講者間のグローバルなネットワークの構築を目的とした研修プログラムです。9カ国15人の研修生は、1年間かけてヤマハ発動機グループの将来像について活発な議論を行います。



※GEP: Global Executive Program グローバル経営幹部育成プログラム

キャリア計画	人材育成プログラム						
	階層別	ビジネスリーダー	グローバル		プロフェッショナル	自己啓発	公募
基幹職	関係会社役員研修 新任部長研修 新任基幹職研修	異業種交流 他社出向	GEP	異文化理解・ビジネスライティング・語学	職能(機能)専門別スキル ・研究 ・製造 ・管理 ・開発 ・マーケティング ・財務知財 ・IT		セルフ・バリユー・チャレンジ(SVC)
一般社員	人材育成計画(キャリアサーベイ)	海外留学奨学金制度	ヤマハビジネススクールJ	異文化適合マネジメント研修		ヤマハフレックススクール 財務・経理	語学自己啓発講座
	階層別研修(主務・上級指導員・上級工師)		海外研修・留学制度・海外現場体験出張				
	階層別研修(主事・指導員・工師)						
	階層別研修(担当他)						
新入社員	新入社員研修				事業機能別研修		



## 多様性を活かした職場づくり

ヤマハ発動機グループは「企業活動の原点は人」という基本認識のもとで人権に対する考え方を『CSR基本方針』『倫理行動規範』のなかで明示しています。

ヤマハ発動機は、「障がい者と健常者が一緒に就労できる職場運営を行う」という考えのもとに「障がい者雇用促進委員会」を設置し、各部門に配置した担当委員が行う業務分析などによる職場環境の整備に努めています。2014年12月末の時点で重度障がい者78名、軽度障がい者65名の計143名が活躍していますが、障がい者雇用率は1.96%となっています。日本では2013年4月1日以降の障がい者法定雇用率が1.8%から2.0%に引き上げられ、ヤマハ発動機では障がい者雇用水準を高める追加の施策を現在進めています。今後も障がい者雇用を進めていくことで、障がい者と健常者が共に生活できる社会の実現に努めてまいります。

また、ヤマハ発動機では、従来から社内託児所、育児休職制度、短時間勤務制度の充実等、多様性が尊重される職場づくりを進め、「男女共同参画社会づくり活動に関する知事褒賞」や「ファミリーフレンドリー企業表彰」などを受賞してきました。今後はさらに、女性の就労機会を積極的に拡充すると同時に、計画的な人材育成を推進し、女性管理職数を2020年までに2倍<sup>※</sup>、2025年までに3倍<sup>※</sup>とすることを目指します。

※2014年対比

### 【主な取り組み】

1. 採用における女性比率向上
2. 子育て世代の社員へのより働きやすい環境の提供
3. 女性の活躍の場を拡大するためのキャリア形成支援や能力開発および職域開拓

## 仕事と生活の両立支援 – 自立的で創造的な仕事環境を目指して

ヤマハ発動機グループでは、従業員と会社の関係を「ビジネスパートナーシップ」、会社が担う役割を「自立した個人に対する魅力づくり」と定義し、相互確認を前提としたキャリアプランの設計を支援するとともに、育児・介護休職制度などのワークライフバランス（仕事と生活の両立）を確保した職場づくりを目指しています。また、従業員が各自の状況に適した働き方ができるように選択肢の充実に取り組んでいます。

### ヤマハ発動機の主な育児・介護支援制度

制 度	内 容
育児休職	子どもの満2歳の誕生日まで休職可能 (2014年取得：女性83人、男性6人)
介護休職	1年以内で本人が申請する期間で休職が可能 (2014年取得：男性2人)
看護休暇	小学校就学前の子どもを看護するための休暇を、子ども1人の場合は年間5日まで、子ども2人以上の場合は年間10日まで取得可能
フレックスタイム制度	6：30～21：45の時間内で労働時間の設定が可能 ※コアタイム 例＝10：15～15：00
勤務の軽減	小学校の就学に達するまでの子どもを養育する従業員、または家族を介護する従業員に対しては、時間外労働の制限や深夜業務免除
短時間勤務制度	2時間の勤務時間短縮が可能 (2014年取得：女性102人、男性1人)
その他	定時退社デーの設定（当社休日の前日、給与日、賞与日） 3日連続の有給休暇取得（30歳以上は5歳毎に5日連続取得）



### 職場の安全衛生 – 安心して快適に働ける職場環境を目指して

ヤマハ発動機では、中央安全衛生委員会が中心となって、安全な労働環境の整備をグローバルに推進しています。労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS<sup>※</sup>）に基づいてリスクアセスメントを実施、職場の潜在的な危険性や有害性の発見に努め、労働災害防止活動に取り組んでいます。また、安全管理者研修や監督者の能力向上研修などの階層別の教育・研修、安全衛生大会の開催などを通じ、安全を支える人材の育成にも注力しています。

※OSHMS: Occupational Safety & Health Management System

### 心と体の健康のためのサポート

ヤマハ発動機では、従業員の心と体の健康維持・改善を支援するためにさまざまな活動を推進しています。

生活習慣病の予防・改善については、ウォークラリーイベントの開催、年2回の「歩け歩け運動」の実施などを通じて、運動習慣による肥満の防止や持久力向上に努めるなど、健康で活力のある職場づくりに取り組んでいます。また、禁煙の取り組みを支援するために、健康保険組合との協働で希望者に対する禁煙補助剤の提供や禁煙指導を行っています。

2014年は喫煙率低減・受動喫煙防止活動として時間制喫煙、喫煙場屋外化、禁煙支援に取り組み喫煙率低減につなげた結果、喫煙率は29.7%となりました。メンタルヘルスに関するサポートとしては、産業医による保健指導、新任基幹職・監督者を対象としたメンタルヘルス研修、海外駐在員や中途で入社した社員に対する支援といった取り組みを引き続き実施しています。



サブライチェーンでの  
取り組み

▼販売店との取り組み

## 協働と公正の精神に基づくグローバル調達・販売ネットワーク

ヤマハ発動機の製品は、国内外のさまざまなサプライヤーとの協働によって成り立っています。ビジネスのグローバル化によって拡大していく調達・販売体制の中で、ヤマハ発動機グループは「相互信頼・相互繁栄」の精神に基づいて国内外さまざまなサプライヤー・販売店との協働関係を確立しています。そのため日ごろから、各国・地域の競争法を遵守した公正な取引の維持に努め、ともに持続可能な成長を目指すパートナーとしての関係構築に取り組んでいます。

### サブライチェーンでの取り組み

ヤマハ発動機グループでは、サブライチェーンとの関係において、「モノを買う調達」だけではなく「コストと品質を一緒に創りこむ“モノ創り調達”」という考えを重視しています。

この活動例として「理論値生産<sup>※</sup>」のサプライヤーへの展開があります。これはサプライヤーに対して単にコストダウンを要求するのではなく、モノ創りの絶対価値をサプライヤーの皆さまと分析設定し、どうコスト競争力を高めるかに向けてともに取り組んでいくものです。

ヤマハ発動機では「理論値生産」を国内外のサプライヤーに展開を進めるために「理論値インストラクター」として社員を教育し派遣することで、ともにコスト競争力強化に取り組んでいます。また、環境負荷低減・資源エネルギー効率活用のための「グリーン調達ガイドライン」や、安全・品質・コンプライアンスに関する「調達先CSRガイドライン」についての研修会などを通じて公正でクリーンな調達活動をグローバルに推進しています。

※理論値生産：生産におけるさまざまな作業を分析して本当に価値を生む作業だけを価値作業とし、それ以外を排除していく作業ロス削減手法の一つです。一般的な手法が現状からみたまダの排除を積み上げていくのに対して、最初に理論上の価値作業を分析設定し、その実現に向けた改善に取り組むものです。

### 販売店との取り組み

世界各国で展開する販売店は、お客さまとの接点として、ヤマハからの「次の感動」を伝える重要な発信地の役割を担います。ヤマハ発動機グループでは、定期的にディーラーミーティングなどを開催して販売店との連携を強化し、安全運転普及活動や地域貢献活動支援を通じて、共通の価値を提供する販売ネットワークを構築しています。

日本では、ヤマハスポーツバイクディーラーであるYSPを主とした販売店とグループ会社のヤマハ発動機販売（株）が協働で、二輪車の社会環境づくり、マナー促進活動、二輪車リサイクル、植樹キャンペーン環境活動、盲導犬育成募金活動などに取り組んでおり、地域や社会との関係構築において重要な役割を担っています。



ヤマハ発動機グループの活動拠点は、世界各地に所在し、地域社会の人々に支えられて事業活動を行っています。また、私たちの製品が世界各地の人々に利用され、より豊かな生活に役立つよう願っています。私たちは企業と地域社会との共存共栄を図り、持続可能な関係が重要であるとの認識に立ち、そのためには地域のステークホルダーの皆さまと日常的なコミュニケーションを通じて、信頼関係を維持・向上することが大切であると考えています。

ヤマハ発動機グループの取り組む社会貢献活動は、「将来を担う人々の育成」「地球環境の保全」「交通安全普及」「地域社会の課題」の4つを重点領域としています。ヤマハ発動機ではグループ会社が実施している社会貢献活動を重点領域ごとに集計し社内で共有することで、地域社会との「共通価値の創造（CSV）」につながる意識の啓発を続けています。ここでは年度ごとの活動を集計した社会貢献活動の中から、一部の事例をご紹介します。

### 社会貢献活動の重点領域

	グローバル課題			ローカル課題
取り組みテーマ	将来を担う人たちの育成	地球環境の保全	交通安全普及	地域社会の課題
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツを通じた心身の育成</li> <li>モノ創りを通じた創造性の育成、など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会への環境教育</li> <li>生物多様性の尊重、など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会への交通安全教育</li> <li>啓発活動、など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社製品や人材、ノウハウを使った地域支援、など</li> </ul>

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団



## 社会貢献活動の事例



ヤマハ発動機グループでは事業活動を通じた社会貢献以外にも、事業を営むさまざまな国や地域でステークホルダーとのコミュニケーションを通じた社会貢献活動に取り組んでいます。

### 将来を担う人たちの育成



【インド】  
女性の社会進出を支援する取り組み

### 地球環境の保全



【日本】  
当社製品を利用したクリーン活動

### 交通安全普及



【インド】  
世界各地で開催されるYRA  
(ヤマハライディングアカデミー)

### 地域社会の課題



【タイ・アルゼンチン】  
地域の学校を支援



### 女性の社会進出を支援する取り組み

インドの女性の地位向上と就業率向上を図るため、IYM<sup>※</sup>は2012年9月にインド北部にあるウッタール・プラデーシュ州政府と提携し、女性向けの職業研修プログラムを立ち上げました。同州スラジプールの工場で女性160名が、研修生としてスクーター製造ラインでエンジンや車体組立といった職業訓練を受けています。

研修中は職業研修プログラムに従って賃金が支払われるだけでなく、従業員と同様の昼食や医療、通勤手当などの福利厚生も受けられるようになっています。

このプログラムを通じて3年間の実地研修（OJT）を終え、試験に合格すると産業訓練研究所の資格証明書が取得でき、就職活動が有利となります。優秀な研修生は、IYMの従業員として登用されることもあります。

IYMでは、家族を養う賃金を得る機会を与えるだけでなく、研修生に対し「自分は社会に貢献できる存在である」という自信を養うこのような取り組みを通して、女性の地位向上に貢献しています。

※IYM: India Yamaha Motor Pvt. Ltd.







### 当社製品を利用したクリーン活動in浜名湖

当社製品を利用して自然を守る取り組みとして、浜名湖のクリーン活動を当社ウォータービークル事業部門が行っています。クリーン活動当日は、水上オートバイやスポーツボート・和船に乗り、湖上から湖岸に上陸しクリーン活動を展開しています。

ボートや和船を利用して湖上側から湖岸の清掃活動を行うことにより、陸上側からでは下りられないような湖岸の清掃活動も可能となり、清掃範囲が広がりました。

今回で4回目となるウォータービークルクリーン活動は、従業員など64名が参加して大崎海岸の約5.5kmにわたる湖岸で行われ、約2時間でゴミ袋85袋（約100kg）分のゴミを回収し、湖西市清掃局に引き渡しました。





### 世界各地で開催されるYRA（ヤマハライディングアカデミー）

アジアを中心にヨーロッパ、アメリカなどで行っているYRAは、オートバイの免許を持っている人だけでなく、これから免許を取得する人や、小学生から高校生といった幅広い人々を対象に開催しています。また、モーターサイクルだけでなくATV（四輪バギー）、スノーモビル、ウォータービークルのYRAも各地で開催されています。

インドでは、ファミリー向けスクーターを販売したことを契機に、主婦層を中心としたライディングトレーニングプログラムを開始しました。定期開催プログラムとして、インド国内各地のマンション敷地内などの住宅地で実施され、参加者に対して交通規則を守った安全な運転を指導し、事故の防止を目指しています。





### 地域の学校を支援

ヤマハ発動機グループでは、大学や高校、専門学校などの教育機関へのオートバイ寄付や技術指導はもちろんのこと、近隣の幼稚園や学校、養護施設で直面している問題にも支援を行っています。

その一つとしてタイのTYM<sup>※1</sup>は、ワット・サムマカン学校で図書館をつくるためのレンガづくりに、従業員とヤマハクラブ会員合わせて約100名が協力し、砂質粘土を混ぜて成型し、日なたで干す作業を行いました。

また、同じタイにあるYPMT<sup>※2</sup>は、2014年9月に起きた洪水被害で影響を受けたチョンブリー県にあるワット・パーントーン学校に60名の従業員が出向き、フェンスや通用門の補修、ペンキ塗りに汗を流しました。

そのほかにも、アルゼンチンのYMARG<sup>※3</sup>では、養護施設に学校用品を寄贈、ヤマハ発動機でも毎年特別養護施設に訪問し施設修理や生徒との交流を行っています。



※1 TYM: Thai Yamaha Motor Co., Ltd.

※2 YPMT: Yamaha Motor Parts Manufacturing (Thailand) Co., Ltd.

※3 YMARG: Yamaha Motor Argentina S.A.

## 従業員によるボランティア活動の事例



ヤマハ発動機グループでは企業活動としての社会貢献活動に加え、従業員によるボランティア活動についても、社内イントラネットの情報提供システムを活用したサポートを行っています。ここでは日本国内における一部の事例についてご紹介します。


### スポーツに関わる活動を通じたボランティア

ヤマハ発動機グループでは、従業員のボランティア意識の啓発と行動を始める“きっかけ作り”として2004年から「4万人のV（ボランティア）作戦」を展開しています。「4万人のV作戦」は従業員一人一人が年1回ボランティア活動を行うことで、グループ全体で年間4万人が社会貢献を行うことを目指しています。

ヤマハ発動機の本社がある静岡県は、日本でも有数のサッカーや野球といったスポーツが盛んな地域であり、従業員ボランティア活動においても年間延べ約39,000件のうち3割以上がスポーツに関わる活動を行っています。ヤマハ発動機では、従業員によるボランティア活動をサポートするために、同じ思いを持った仲間を紹介する社内イントラネットのサイトが開設されており、ここに登録紹介されているグループの一つにヤマハ発動機ラグビースクールがあります。



ヤマハ発動機ラグビースクールはヤマハ発動機ラグビー部OBが中心に活動しており、ラグビーを通じて仲間との協調性を養い、思いやりの心を育て、健康な身体育成に重点を置いた指導・活動を行っています。



地球環境とともに  
地球環境への取り組み姿勢や方針についてご紹介します。

▶ 地球環境とともに

▶ 2014年の計画と実績

▶ 環境マネジメント

▶ CO2 排出量の削減

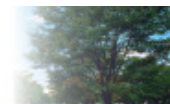
▶ 環境負荷物質の削減

▶ 省資源・リサイクル

▶ 生物多様性の保全

▶ 環境コミュニケーション

## 地球環境とともに



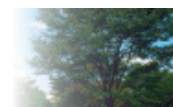
地球温暖化の進行、エネルギーや水の利用、生物多様性の保全など、持続可能な社会の実現を左右するさまざまな環境・資源問題が世界レベルで深刻化しています。

モビリティを支える製品をグローバルに提供する企業の社会的責任として、これらの課題への真摯な対応が求められているとヤマハ発動機グループは考えており、なかでも、事業活動の基軸であるパーソナルモビリティが果たす役割は非常に大きいと認識しています。技術革新による環境負荷がより少ない小型ビークルの実現、電動アシスト自転車や電動二輪車といったスマートパワー※製品の普及、次世代動力源の研究開発、事業で培った人材・モノ・ノウハウによる社会貢献活動の推進など、企業活動の全てにおいて地球環境との調和に配慮した取り組みを進めています。

※スマートパワー＝電動車両を基軸とする新しいモビリティを追求した新動力源

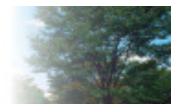
ヤマハ発動機グループ 環境計画2020			
取り組み分野	重点取り組み項目	2020年目標	
エコ プロダ クツ	環境・お客さま 基点の製品開発による 『環境魅力向上』	エコプロダクツの領域は、全社の長期ビジョン “Frontier2020”として展開する	
		「環境負荷物質のリスク低減」 「グリーン調達推進」	環境負荷物質の 把握と代替の推進
エコ オペレ ーショ ン	環境負荷最小化を 目指したグローバルな 事業活動による 『環境保全』	温室効果ガスの排出量削減	CO2原単位で年平均1%削減
		「3Eで3Rを」 「水使用量の削減」 3E:つくりやすく、直しやすく、分解しやすい 3R:リデュース・リユース・リサイクル	限りある資源の有効利用と 循環利用の促進
エコ マネジ メント	グループ環境 ガバナンスの仕組み 強化による 『環境管理』	「グループ全体の環境管理 システムを構築し運営」	グループ全体の運営と ローカルな活動の連携が取れている
エコ マイ ンド	持続可能な地球環境を 目指した多様な エコ活動による 『環境貢献』	「継続的な環境教育による 意識改革」	グループ全員が高い目標意識で 環境取組を積極的に行っている
		「感覚環境（臭気、騒音など）の改善」 「地域とのコミュニケーション」 「生態系の保全」	企業市民として地域から信頼され、 敬愛を受けている
		「環境を切り口とした 積極的な情報発信」	環境先進企業として社会から 高い評価を受けている

## 2014年の計画と実績



取り組み分野	重点取り組み項目		2014年計画	2014年実績
エコプロダクツ	環境・お客様基点の製品開発による、環境魅力向上		環境魅力向上の製品開発	各事業部中期計画で展開
エコオペレーション	「環境負荷物質のリスク低減」	CO2排出量把握と削減活動	グループ各社が、原単位（売上高）1%/年平均削減を達成	グループ各社で、CO2原単位削減1%/年を設定し事業活動全般における温室効果ガスの削減の取り組みを進めています。2014年の原単位は、2013年比で17%改善し目標を達成しています。
	「温室効果ガスの排出量削減」	製造段階でのCO2削減	原単位2009年比 5%削減	2009年比原単位は26%削減となり目標を達成しています。
		物流段階でのCO2削減	原単位年平均1%削減 2006年比 6%削減	前年比 4.0%改善 2006年比 0.3%悪化
		VOC排出量削減	2010年度比で悪化させない VOC排出原単位の継続	削減活動の継続
	「グリーン調達」の推進	グリーン調達活動	使用禁止又は制限する物質の遵守（製品含有「有害物質ゼロ」）	グリーン調達活動の継続
	「3Eで3Rを」	開発段階での「3R」推進	リユース&リサイクル取り組み	取り組みの継続
		製造段階での「3R」推進	廃棄物の直接間接埋立て量0トン	0トン
			製造部門のリサイクル率100%	100%
		製造廃棄物排出量	スーパーゼロエミッション継続	スーパーゼロエミッション継続達成
		国内製品リサイクル体制の確立	二輪車リサイクルシステムの自主取り組み	販売店を窓口にも、適正処理・リサイクルを実施（国内の取り組み）
部品梱包材の削減	梱包資材の削減。リターンブル率68%	73.6%となり達成		
「水使用量の削減」	水使用量の低減	グループ各社の水使用実態の把握	対象会社84社に対して、83社（99%）の水使用実態調査実施	
エコマネジメント	「グループ全体の環境管理システムを構築し運営」		統一認証加入会社拡大 計画13社	実績 13社 統一認証加入26社におけるグループEMS活動を実施
			自己認証制度を見直し、現地審査を重視した外部機関との共同によるカスタマイズ審査への移行	外部機関とのカスタマイズ審査基本スキームの合意への移行

## 2014年の計画と実績



取 り 組 み 分 野	重点取り組み項目	2014年計画	2014年実績
E C O M I N D	「多様なエコ活動の展開と支援」	エコ通勤者参加率67%	エコ通勤者参加率 73.7%達成
		エコポイント制度の定着	ヤマハエコポイント制度の対象となる活動に参加した人：6,825人と定着
	「継続的な環境教育による意識改革」	階層別環境教育の実施	新入社員、一般職、監督職、部長職（環境情報の配信）に実施
	「地域とのコミュニケーション」	4万人のV（ボランティア）作戦でヤマハグループ延べ4万人参加継続	2014年実績39,557人で未達成。 前年比は、104.8%前年伸長（目標未達98.9%）
		地域・学校に対する企業環境取り組み講演などの実施	静岡県内2大学へ企業環境取り組み講演を実施。 近隣2中学校生徒に、環境教室を実施。
		地方自治体・各企業と連携した環境保全活動の継続	磐田市植林地帯での間伐や植林、浜松市ウエルカメビーチクリーン作戦、湖西市浜名湖クリーン作戦及び浜名湖クリーン活動、遠州灘防風林での松くい虫対策の植林など、活動に参加
		地域とのコミュニケーションを目的としたイベントへの参加	地域自治体と対話集会を実施 地域NPO法人との協力体制継続
	「生態系の保全」	アカウミガメの保護活動 生態系モニタリングの活動	アカウミガメの保護活動に協力 菊川テストコース敷地及び自然公園で希少植物種の蘭、タコノアシなどの保護を目的としたモニタリング実施
	製品・技術・サービスでの環境情報発信	環境製品の情報発信	当社コミュニケーションプラザにて環境製品の公開展示
		製品の環境情報の提供を推進	二輪車の車種別環境情報と「3R」設計、二輪車・FRPリサイクルシステムなどをウェブサイトに継続公開

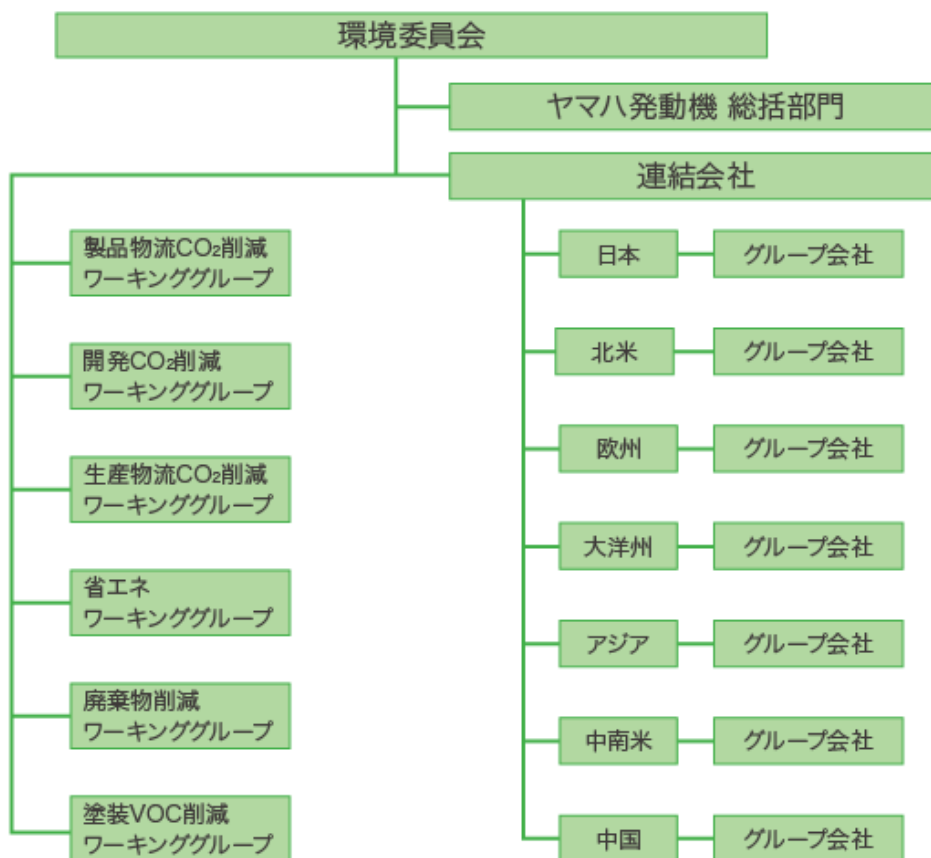




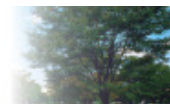
## 環境経営を推進する体制

ヤマハ発動機グループでは、代表取締役副社長を委員長とする「環境委員会」を国内外における環境活動の中核を担う組織として位置づけています。この委員会が、環境に関わる活動の方針やビジョン、中長期の環境計画、環境保全に関連する戦略投資案件、環境モニタリングに関する事項および課題への対応、そのほか環境経営に関する重要課題についての審議を行っています。

ヤマハ発動機グループの環境企画・推進組織



## 環境マネジメント



### 統一認証による環境ガバナンスの強化

ヤマハ発動機グループでは、『グループ環境計画2020』の重点取り組み分野の1つである『エコマネジメント』に基づき、グループ環境ガバナンスの仕組みの強化および環境マネジメント活動の効率的な運用のために、グループ会社を対象としたグローバル環境ISO14001統一認証化の取り組みを2012年から進めています。

対象会社は、日本・欧米・アセアン・中国・台湾・インド・南米の各地域で製造会社を中心に39社あり、2014年末時点で26社が統一認証に参加しています（進捗率67%）。

併せて、ヤマハ発動機グループ独自の環境マネジメント認定制度を導入し、比較的環境負荷の少ないグループ会社においても、グローバルに環境活動を展開しています。

これらの取り組みの効果として、グループ各社の活動がマネジメントレビュー等を通じてヤマハ発動機本社へ報告され、双方向の情報共有が進みました。また、不適合情報や改善事例をグループ間で共有することにより、是正改善プロセスのレベルアップに繋がっています。更に、統一認証の推進に伴い、グループ全体の審査費用を低減する等、効率面でも効果が現れています。

今後は対象となるグループ会社全39社の統一認証化に向け、更なる取り組みを推進していきます。



2014年YIMMで統一認証の導入説明会を実施

### グローバル環境情報ネットワーク（G-YECOS）

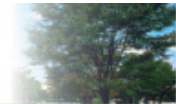
ヤマハ発動機グループでは、独自のグローバル環境情報ネットワークシステム（G-YECOS）を活用し、グループ間においてEMS活動の双方向コミュニケーションを図っています。統一認証開始後も、ネットワークシステムを改良し、よりグローバルな使い勝手を向上すると共に、更なるEMS活動の見える化に取り組んでいます。

### 統合マネジメントシステムの運用

ヤマハ発動機では、2011年から運用を開始している統合マネジメントシステム（環境&安全）により、従来の個別運用に比べて著しく効率化が図られました。特に昨年からリスク評価から目標設定に繋がるプロセス、法順守及び是正処置プロセスを重点課題として取り組み、現場改善の実効性を高めています。

### 統合MS監査

ヤマハ発動機では、独自の監査員研修会にプロセス指向の監査手法を取り入れ、業務プロセスに内在する様々なリスクを洗い出し、業務の有効性に焦点を当てた監査を実施しています。また、監査員の人数と監査レベルを適切に維持するため、定期的に若手人材の育成を進めています。



## 環境経営のコスト

ヤマハ発動機では、環境保全活動の定量的な情報開示を行うとともに、より効果的な環境経営を進める為に、環境省による「環境会計ガイドライン(2005年度版)」を参考に、環境対応コストに相応する効果を算出しています。

2014年の環境設備投資と経費を合わせて約238億円となり、前年度比で約355%となりました。これは、成長戦略の推進による、研究開発コストの増加や活動の網羅性や正当性の見直しによる、管理活動コスト増加が大きく影響しています。

内訳としては、公害防止コスト(141%)、管理活動コスト(397%)、研究開発コスト(394%)、社会活動コスト(159%)が増加しました。一方資源循環コスト(90%)、地球環境保全コスト(93%)、などが減少しています。

2014年度における環境対応コストとその経済効果 (環境会計算出範囲はYMC統合MS)

分類	環境対応コスト			経済効果		
	投資	経費	合計	年度内	通年換算	
事業 工 リ ア 内	公害防止コスト	138	415	553	21	21
	地球環境保全コスト	206	151	357	27	49
	資源循環コスト	7	130	137	24	26
小計		351	696	1,046	72	96
上流下流コスト	0	4	4	0	0	
管理活動コスト	2	1,120	1,122	0	0	
研究開発コスト	157	21,491	21,649	0	0	
社会活動コスト	0	5	5	0	0	
環境損傷対応コスト	0	3	3	0	0	
合計	510	23,320	23,830	73	97	

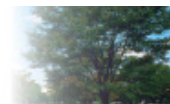
(単位：百万円) 注) 小数点以下は四捨五入しているため、積算と合計が一致しない箇所があります。

- ・研究開発コスト：販売前提の製品開発は含みません
- ・経済効果：「リスク回避」「企業イメージ向上」などのみなし効果については対象としていません
- ・キャッシュフローをベースに算出しており、減価償却費や積立金などは含まれていません

環境保全効果		
分類	年度内	通年換算
削減エネルギー (GJ)	9,743	15,631
CO2低減 (t-CO2)	2,108	2,635
節水量 (t)	2,600	31,200
削減廃棄物 (t)	4,471	4,474
削減VOC (t)	40	40

- ・環境保全効果は、全て対応コストに対応する推定効果の集計
- ・削減エネルギー：電力、石油類、ガス類の削減効果をエネルギー換算
- ・CO2削減効果：エネルギー起源CO2の削減効果

## 環境マネジメント



### 環境対応コストの推移

分 類		環境対応コスト								
		投資			経費			合計		
		2012年	2013年	2014年	2012年	2013年	2014年	2012年	2013年	2014年
事業 エリア 内	公害防止コスト	15	69	138	314	321	415	329	390	553
	地球環境保全コスト	100	172	206	102	212	151	202	383	357
	資源循環コスト	13	1	7	190	151	130	203	152	137
小 計		128	241	351	606	684	696	734	925	1,046
上流下流コスト		0	0	0	9	8	4	9	8	4
管理活動コスト		7	8	2	367	275	1,120	374	283	1,122
研究開発コスト		189	203	157	3,847	5,285	21,491	4,037	5,488	21,649
社会活動コスト		0	0	0	3	3	5	3	3	5
環境損傷対応コスト		0	0	0	17	9	3	17	9	3
合 計		325	452	510	4,849	6,264	23,320	5,174	6,717	23,830

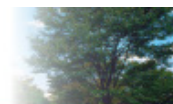
(単位：百万円)

### 経済効果の推移

分 類		経済効果					
		2012年		2013年		2014年	
		年度内	通年換算	年度内	通年換算	年度内	通年換算
事業 エリア 内	公害防止コスト	18	18	17	17	21	21
	地球環境保全コスト	31	53	19	43	27	49
	資源循環コスト	24	27	42	42	24	26
小 計		73	98	79	103	72	96
上流下流コスト		1	1	3	3	1	1
管理活動コスト		1	1	0	0	0	0
研究開発コスト		0	0	0	0	0	0
社会活動コスト		0	0	0	0	0	0
環境損傷対応コスト		0	0	0	0	0	0
合 計		75	100	82	106	73	97

(単位：百万円)

## ヤマハ発動機グループのCO2排出量の推移

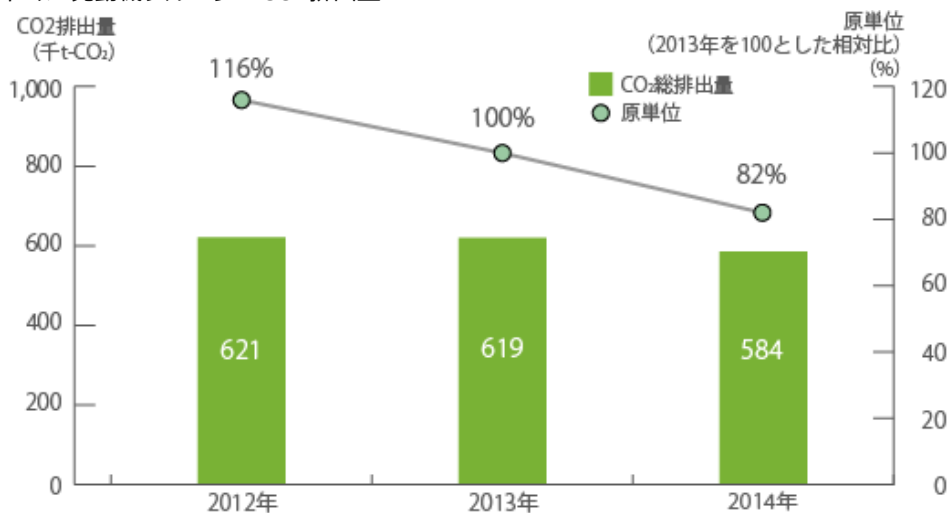


ヤマハ発動機グループは、二輪車を中心とした輸送機器メーカーであり、温室効果ガスの削減を環境分野における最重要課題として取り組みを進めています。

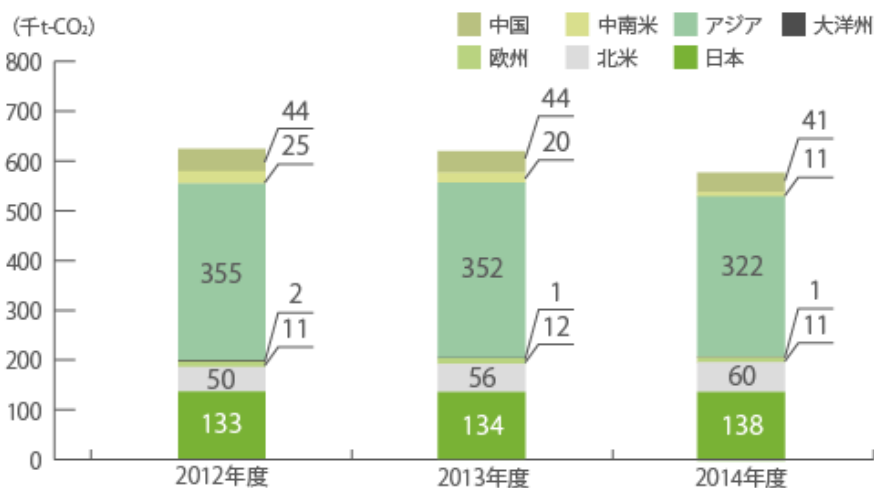
グループ共通の目標としては、「CO2原単位削減1%/年」を設定し、製品の開発、製造など、事業活動全般における温室効果ガスの削減を進めています。

また、グローバルユーティリティコスト削減活動を2013年より開始し、環境性（CO2削減）に加え、経済性との両立を目指した活動を展開しています。日本で培った省エネ技術を国内および海外グループ会社へ展開することで、グループ全体を通じた効率的な活動となります。2014年度は2013年度に対し原単位17%の改善ならびに約23億円のコスト削減を実現しました。CO2排出量は、35千t-CO2削減し584千t-CO2となりました。今後もさらに、国内・海外のグループ会社によるエネルギー使用量削減に向けた活動を加速させ、世界規模での環境性向上と経済性向上を目指していきます。

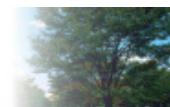
ヤマハ発動機グループ CO2排出量



ヤマハ発動機グループ 地域別CO2排出量



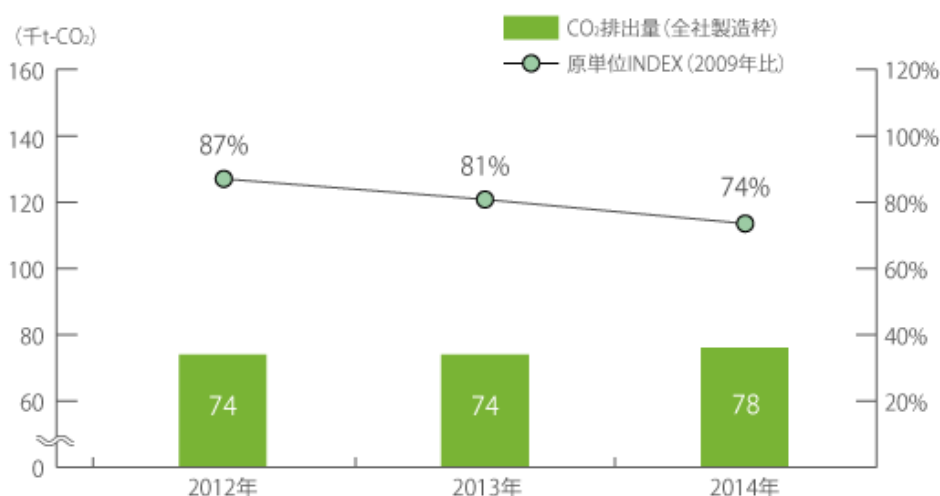
## ヤマハ発動機グループのCO2排出量の推移



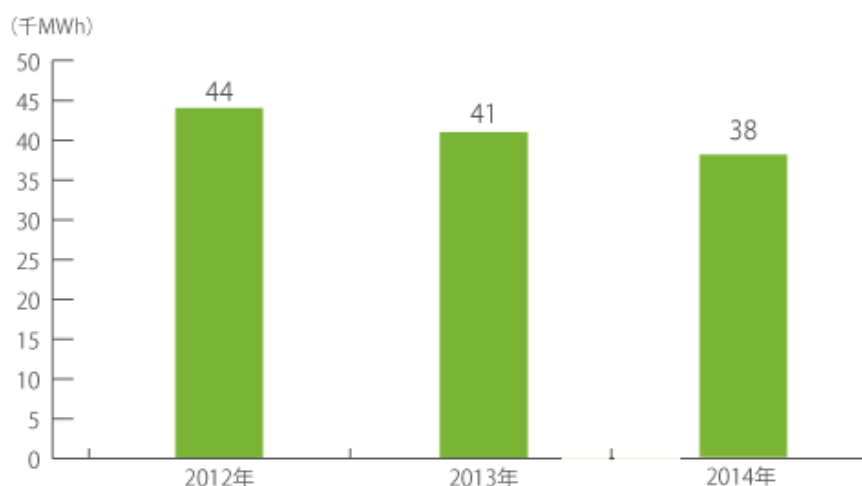
### 製造段階におけるCO2排出量削減

ヤマハ発動機の全社製造枠での2014年目標は原単位2009年比5%削減（CO2総量に換算すると101千t-CO2になります。）に設定していましたが、原単位26%削減（同78千t-CO2）となりました。また、太陽光発電と天然ガスコージェネレーションなどの新エネルギーの利用量は38千MWh（全使用電力の19%）で、CO2削減量は13千t-CO2（火力換算）となっています。今後も引き続き、省エネ設備の導入や運用管理の徹底と改善を進めていきます。

ヤマハ発動機の製造段階におけるCO2排出量と売上高原単位

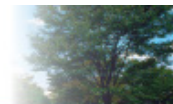


ヤマハ発動機の新エネルギー等の利用量※



※ヤマハ発動機では『新エネルギー利用等の促進に関する特別措置法』に基づいて、革新的なエネルギー高度利用技術である太陽光発電・風力発電・天然ガスコージェネレーションの3つを「新エネルギー等」の対象としています。

## ヤマハ発動機グループのCO2排出量の推移



### 工場における太陽光・風力を利用した発電システム

ヤマハ発動機では太陽光や風力による発電システムを導入しています。2008年に当社初となる太陽光発電と風力発電の同時稼働システムを導入した中瀬工場（二輪車の外装部品の成形・塗装など）や他の工場の太陽光発電装置による2014年の発電量は年間354MWh（約244トンのCO2削減効果）となっており、各工場の事務所の照明や空調などに使用されています。



NEDOとの共同研究事業として導入した太陽光発電システム（中瀬工場）



プロペラ型に比べ、静粛性に優れた縦型風力発電システム（中瀬工場）



袋井工場



森町工場

### ヒートポンプによる新たな加温システムの導入（インド チェンナイ）

2014年はヤマハ発動機グループとして初の海外工場へのヒートポンプ式<sup>※</sup>加温システムを導入し表面処理設備の消費電力削減に取り組みました。ヤマハ発動機グループでは 2011年の袋井南工場、2013年の浜北工場に引き続き3例目の導入事例となります。

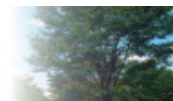
今後もヒートポンプ式加温システムを国内・海外の工場に対し随時導入していく計画です。また、エリア別の間接・直接排出量をより詳細に把握し、各工場・各事業所ごとに一層の排出量削減に向けた活動をしてまいります。

※ ヒートポンプとは、気体は圧縮すると温度が上がり、膨張すると温度が下がるという自然の原理を応用して、周りの空気から熱を集め利用することで、小さな投入エネルギーで大きな熱エネルギーが得られる省エネ技術です。



インド チェンナイ工場のヒートポンプ

# ヤマハ発動機グループのCO2排出量の推移

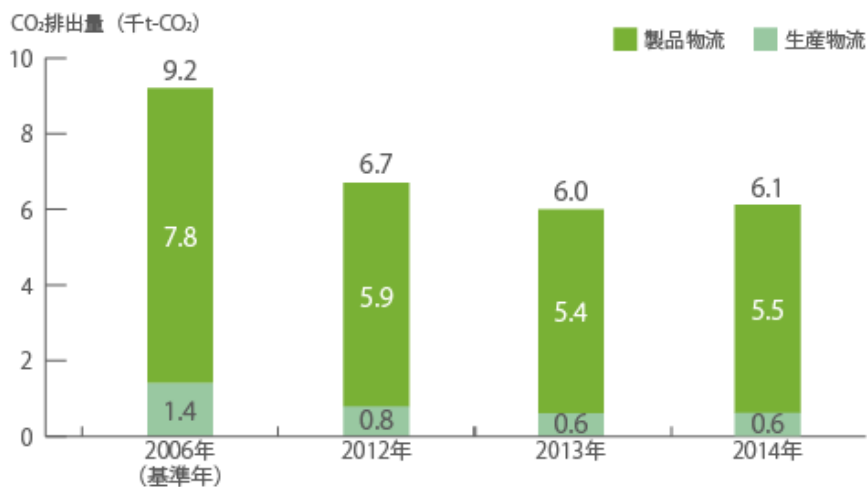


## 物流段階におけるCO2排出量削減

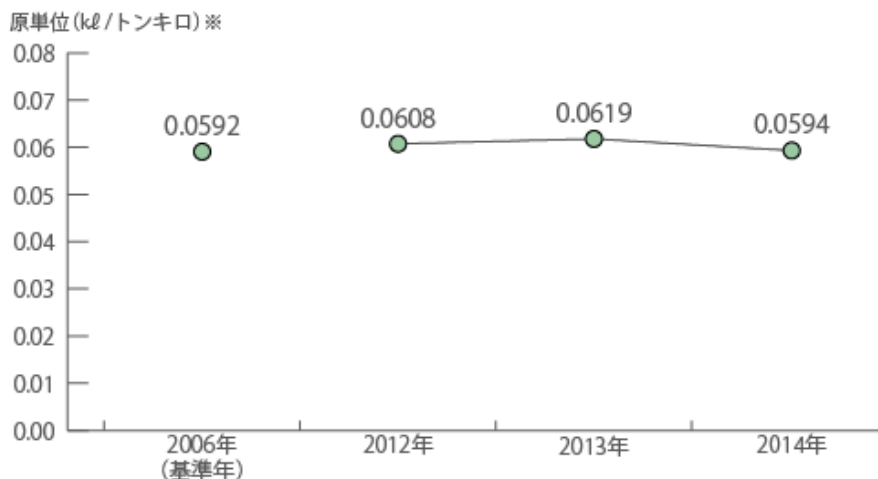
ヤマハ発動機の各部門の物流におけるCO2削減については、「輸送効率を年あたり平均1%削減（2006年を基準として）」という目標を掲げています。省エネ効果とコスト効果の両立をはかりながら削減効果が高いものから実施することを基本方針に、物流におけるCO2削減を統合的に進めるワーキンググループを設置して取り組みを進めています。

2014年は東北向け和船出荷が終了し、工場レイアウト再編による物流見直しや長距離輸送製品の物流改善が進み、前年に対して4.0%改善しました。今後も継続して輸送効率改善に取り組んでいきます。

ヤマハ発動機の物流におけるCO2排出量



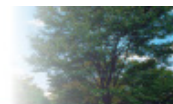
ヤマハ発動機の輸送効率



※1tのものを1km運ぶために必要な燃料エネルギーを原油換算した原単位



## ヤマハ発動機グループのCO2排出量の推移



### 製品におけるCO2排出量削減

ヤマハ発動機グループの製品には、開発・生産・使用・廃棄というプロセスのなかで使用段階におけるCO2排出が特に大きいという特徴があり、製品のライフサイクル全体での負荷を総合的に考え、使用中のCO2の削減につながる取り組みを積極的に進めています。今後も引き続き、製品の燃費向上によるCO2削減に取り組んでいきます。

### “GREEN CORE”思想に基づいた電動自転車用ドライブユニットを開発

ヤマハ発動機は、「軽量・コンパクト・高性能」による走りの楽しさと環境性能を高次元で具現化するスマートパワー・ドライブユニットコンセプト“GREEN CORE（グリーンコア）”に基づいた次世代の電動アシスト自転車用ドライブユニットを開発、2015年モデルより順次搭載していきます。このドライブユニットは、チェーン合力式ユニットの中で小型最軽量クラスを達成しながら、レアアースなどの使用量を大幅に削減し、現行ユニットと同等の最大出力を発揮する高性能小型ドライブユニットです。軽量アルミフレームに搭載することにより、車両の重量をさらに低減し、ドライブユニットの低重心設計と相まって自転車の取り扱いやすさやデザイン性を向上させることが可能です。当社は今後、このドライブユニットを「ナチュラ」シリーズをはじめとするPAS 2015年主要モデルより順次搭載していくほか、国内の電動アシスト自転車メーカーへの供給も行います。なお、“GREEN CORE”思想は、今後の新たなドライブユニットの展開においても継承していきます。

#### “GREEN CORE”思想に基づいた次世代ドライブユニットの特長

1. 小型・軽量：容積を約16%削減、重量を約20%軽量化
2. 低重心設計：重心を12mm下げた新設計構造
3. 高性能出力：現行ドライブユニットと同等の100N・mの最大トルクを発揮
4. 環境性能：レアアース35%、アルミ28%、銅線40%使用量削減

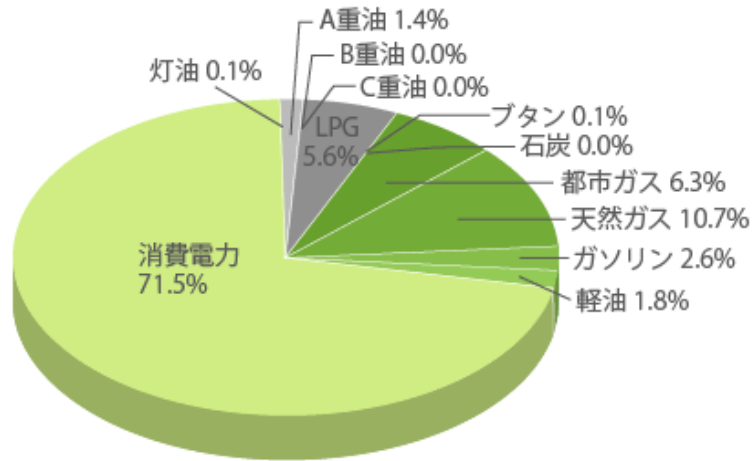


# ヤマハ発動機グループのCO2排出量の推移



## ヤマハ発動機グループのCO2排出量データ

エネルギー別（2014年度）



エリア別（2014年度）

	日本	北米	欧州	大洋州	アジア	中南米	中国	総排出量
製造	135,468	51,208	7,339	0	319,724	11,021	39,673	564,433
非製造	2,640	8,481	3,388	1,161	2,395	34	1,745	19,843
合計	138,108	59,689	10,727	1,161	322,119	11,056	41,417	584,277

（単位：t-CO2）

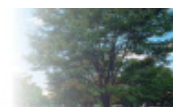
注）小数点以下四捨五入のため、計が一致しない箇所があります。

上位10カ国（2014年度）

インドネシア	日本	インド	アメリカ	中国	タイ	ベトナム	台湾	ブラジル	マレーシア
152,969	138,108	61,373	58,434	41,417	37,222	32,491	31,451	9,647	5,016

（単位：t-CO2）

注）小数点以下四捨五入のため、計が一致しない箇所があります。



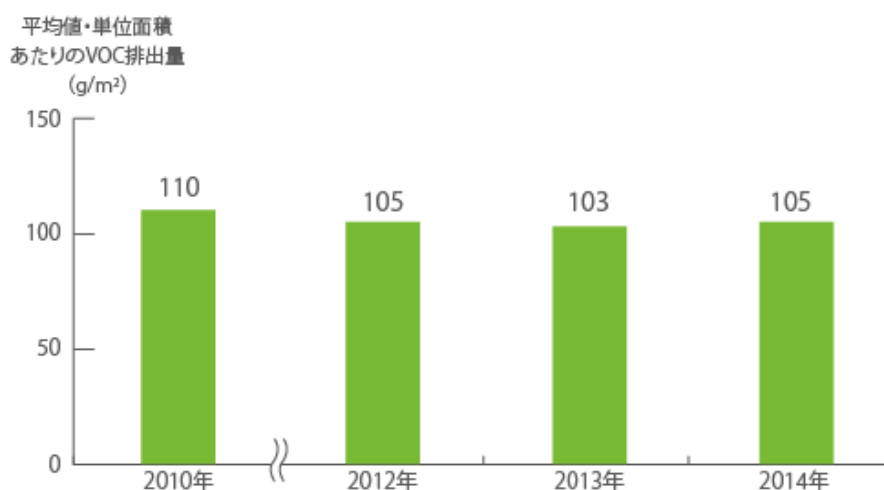
### PRTR制度報告対象物質の削減

ヤマハ発動機グループでは、人体や環境にとって有害となる化学物質の、排出物や廃棄物などへの含有量について、各国の規制に準じて把握・報告を行っています。また、ヤマハ発動機が排出するPRTR制度報告対象物質の99%以上はVOCとなっており、そのほとんどは塗装工程に関わるものです。

磐田本社工場では塗装ブースの設備を更新してVOCの含有量が少ない塗料を採用しています。他工場でも塗料ロボットシステムの最適化などを図ることでVOC排出量を減らすように取組んでおります。

ヤマハ発動機グループではVOCの含有がが少ない塗料の採用拡大や、塗着効率の改善、廃塗料の削減を今後も引き続き推進していきます。

VOC排出原単位の推移



※PRTR : Pollutant Release and Transfer Register (環境汚染物質排出・移動登録)

※VOC : Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物)

PRTR物質別集計一覧 (PDFが別ウィンドウで開きます)

<http://global.yamaha-motor.com/jp/profile/csr/environmental-field/reduction-hazardous-substances/prtr-list-pollutants.pdf>

PRTR事業所別集計一覧 (PDFが別ウィンドウで開きます)

<http://global.yamaha-motor.com/jp/profile/csr/environmental-field/reduction-hazardous-substances/prtr-list-factory.pdf>

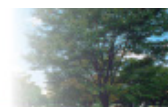
### REACH規制対応

欧州での化学物質の登録・評価・認可および制限に関する規則(REACH)が2007年6月に制定されたことを受け、ヤマハ発動機グループでは化学物質の管理を強化しています。

毎年増加する高懸念物質 (SVHC) に対して監視を行うとともに、日本国内でのモデル調査のみならず、海外各工場における環境管理活動の展開も着実に進めています。

今後もサプライチェーン全体での情報共有を図るとともに、化学物質の管理強化に努めていきます。

## 省資源・リサイクル



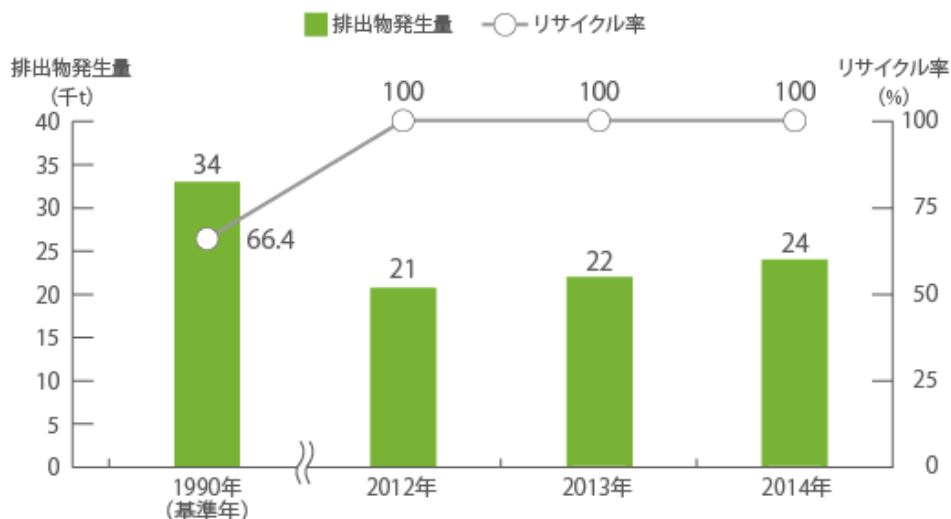
循環型社会の実現に向け、製品の開発、生産、使用、廃棄の各段階で「3R（リデュース、リユース、リサイクル）」の重要度はさらに高まってきています。ヤマハ発動機グループでは「限りある資源の有効活用と循環利用の促進」を目標として掲げ、さまざまな取り組みを行っています。

省資源・リサイクル率向上を目指し、再生材の積極利用をはじめ、部品点数の削減、最適形状の追求による小型化、LED採用による長寿命化、解体容易化設計、また、部品のリサイクル性の向上など、さまざまなアプローチで製品3Rの向上に取り組んでいきます。

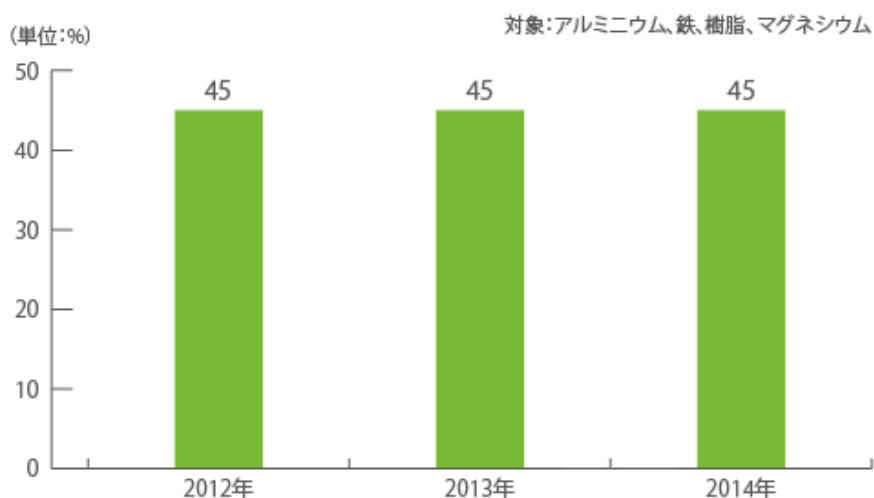
### 製造段階における廃棄物削減と資源保護の取り組み

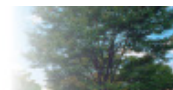
ヤマハ発動機の2014年度の排出物総量は24千tとなりました。廃棄物については路盤材などのマテリアルリサイクルもしくは、サーマルリサイクル処理をしており、直接および間接埋立量「0トン」を継続して達成しています（リサイクル率100%）。

ヤマハ発動機の製造段階における排出物発生量・リサイクル率



ヤマハ発動機の購入材料における再生材の割合



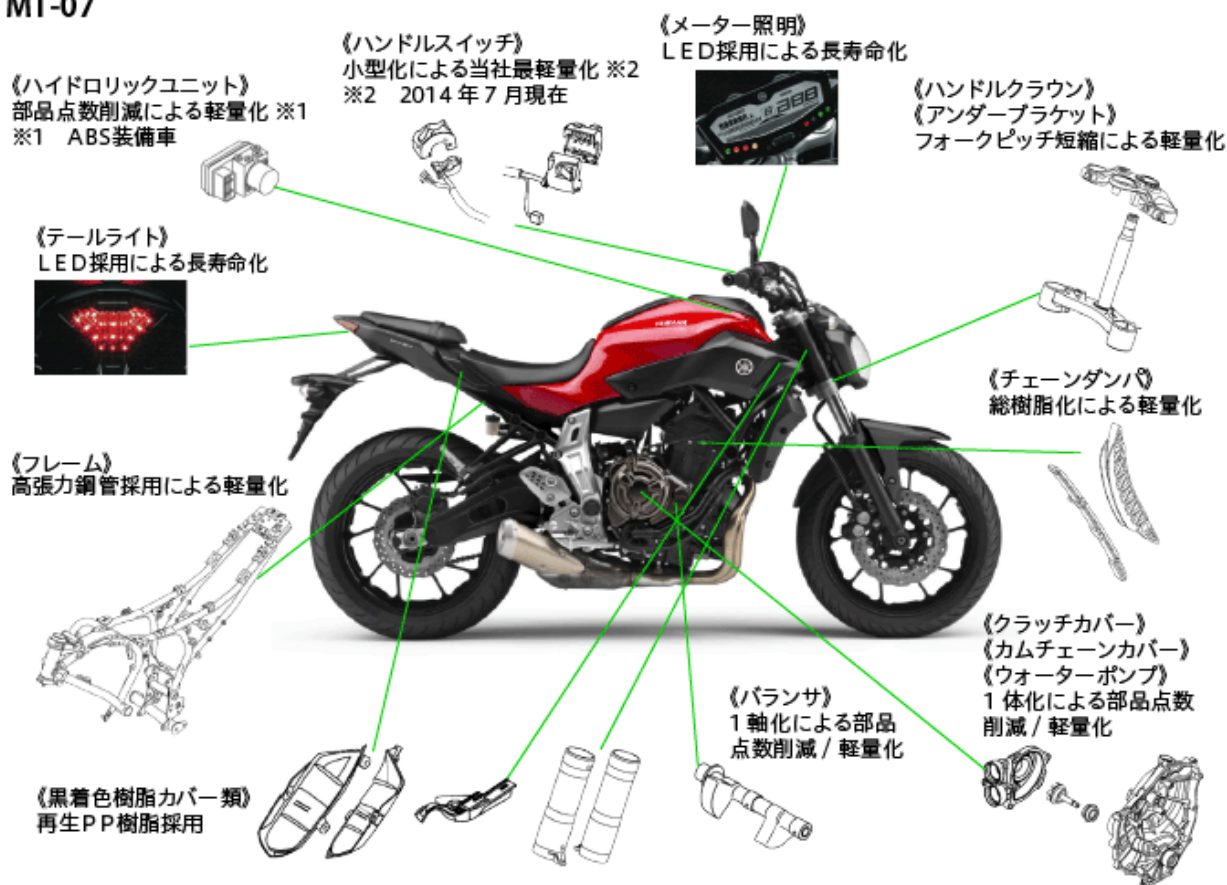


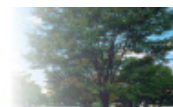
### 3R設計と製品リサイクルの推進

ヤマハ発動機グループでは、各種製品の3R（リデュース、リユース、リサイクル）設計に積極的に取り組んでいます。また日本国内に関しては、廃棄二輪車の取扱店が適正に処理を行う「二輪車リサイクルシステム」を業界他社との協力・連携をとりながら継続して推進しています。

### 製品における3Rの事例

#### MT-07



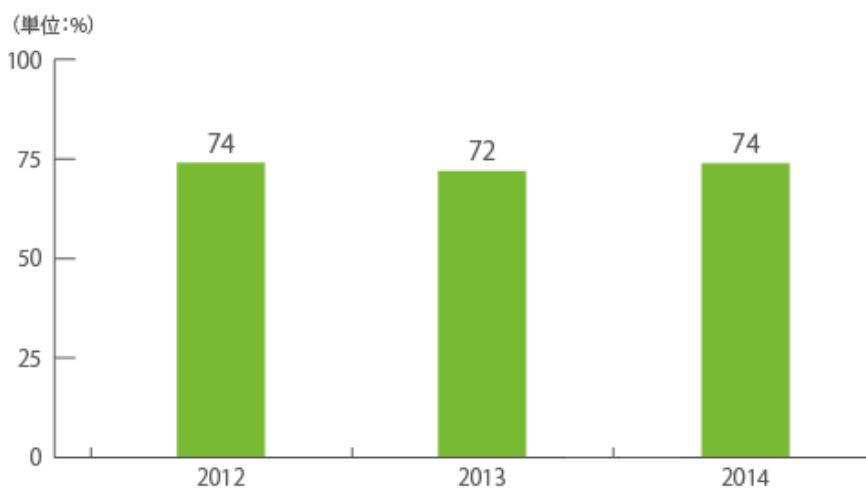


## 補修部品の物流における3Rの取り組み

ヤマハ発動機部品事業部では、輸出用部品の梱包作業における、充填率の向上を図るリデュース活動、事業所より排出される樹脂を再利用したリターナブルパレット製作によるリサイクル活動、及びリターナブルパレット活用地域の拡大によるリユース活動など、部品物流における3R活動を実施し、循環資源化や、省資源化に努めています。

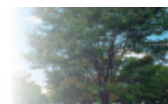
2014年の取り組みでは、輸出用部品梱包用機材のリターナブル率70%以上を目標に掲げ、2014年リターナブル率実績は74%となりました。

ヤマハ発動機の部品梱包容器の海外出荷リターナブル率



リターナブルパレット製作によるリサイクル活動

リターナブルパレット2014年実績数	
仕向け地	パレット枚数
欧州	2,800
北米	3,500
大洋州	200
アジア	500
合計	7,000

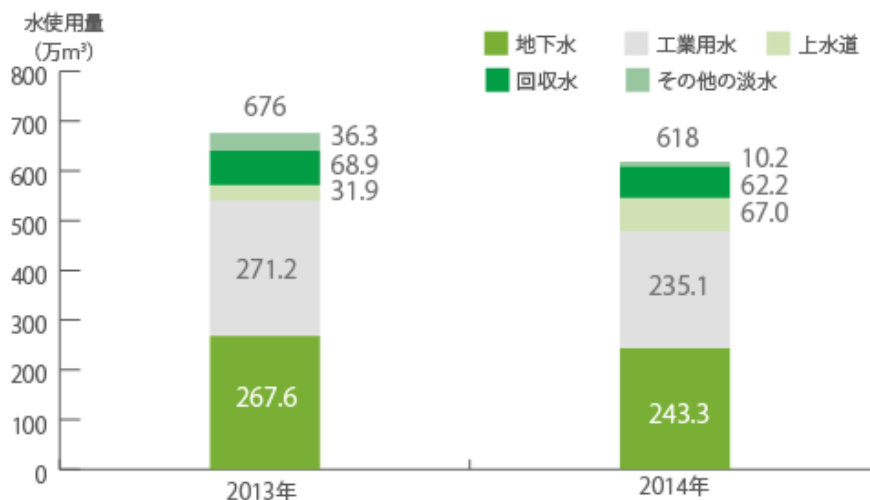


## 水資源の把握と削減

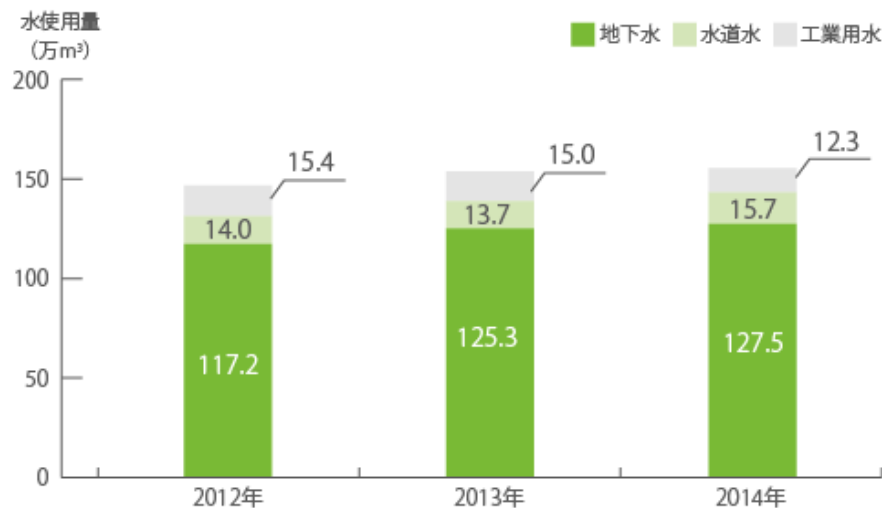
ヤマハ発動機グループは水資源使用量の把握に努めています。2014年度に把握できた使用量は、グループ全体で前年より58万m<sup>3</sup>減の618万m<sup>3</sup>となり、主な使用状況は39%が地下水で243万m<sup>3</sup>、38%が工業用水で235万m<sup>3</sup>となりました。

限りある資源の有効利用と、循環利用の促進を目標としており、グローバルな水使用量の把握の継続に努め、工場での冷却水循環化や回収水（雨水など）の利用をはじめ、水使用量の削減に取り組んでいます。

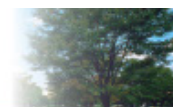
ヤマハ発動機グループ 水資源使用量



ヤマハ発動機の水使用量の推移



## 生物多様性の保全



生物多様性の保全活動につきましては、ヤマハ発動機グループCSR基本方針や環境計画2020に基づくとともに、環境省のガイドラインを参考とし、生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性に体系的に取り組んでいます。

### 菊川テストコースにおける希少植物種の保護

静岡県菊川市の二輪車用テストコースについては、コースの外周に一定幅の既存植生の確保や植林するなど、生物多様性の維持や環境保全に配慮しています。着工前となる2008年には、建設用地およびその周辺区域の環境評価を1年間実施しています。翌2009年には静岡県レッドデータブック掲載種（カテゴリー：絶滅危惧II類、準絶滅危惧）のうち、確認された植物（6種）、哺乳類（1種）、鳥類（4種）、魚類（1種）などの保全計画となる「自然環境保全協定書」を作成し、2010年に静岡県くらし・環境部環境局自然保護課に提出。2013年には、テストコースの運用を開始しましたが、希少植物種などのモニタリングを継続的に実施しています。

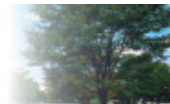


2014年も菊川テストコース敷地内で、希少植物種である、シランや、キンランの開花を確認しました。エビネやナギランは、新葉が確認できました。

※モニタリングのための目印テープは、生分解性のテープを使用しています。



## 生物多様性の保全



ヤマハ発動機グループでは、絶滅危惧種のアカウミガメの保護を目的に産卵に訪れる中田島海岸（静岡県浜松市南部）のクリーン作戦とアカウミガメの子ガメの観察会を1991年より継続して実施しています。

### ウェルカメクリーン作戦へ参加

2014年5月第25回ウェルカメクリーン作戦（海岸清掃）へグループ従業員とその家族、友人約210名が参加しました。



ヤマハ発動機受付、中田島砂丘入口地点より



家族でクリーン活動

### 子ガメ観察会&ビーチクリーン作戦開催



サンクチュアリN.P.O.よりアカウミガメの生態についてのお話



クリーン作戦の様子

### 砂浜の回復作業



麻袋に砂を詰め、砂を堆積させます



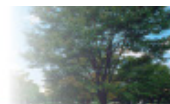
子供たちも連携作業を手伝います



砂浜の回復により、アカウミガメを守ります



袋にはコウボウ麦の種を差し込みます



## マリンクリーン活動in浜名湖

湖の自然を守る為、自社製品を活用した、マリンクリーン活動in浜名湖（5月・9月、年2回）を実施しました。  
ウォータービークル事業部従業員など約100名/年の参加により湖岸に流れ着いたごみを水上オートバイやボートなどで、回収しました。



水上バイクから和船へごみの中継



約100kg/1回、のごみ



陸から行けないところへも上陸



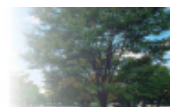
和船も人を運ぶ



流れ着いたごみを回収



栈橋へ集合

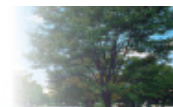


珊瑚礁の回復活動 (タイ)



タイのチョンブリ県、ドンタンビーチでさんご礁の回復を目的とした珊瑚苗の植え付け活動

## 環境コミュニケーション



ヤマハ発動機グループでは、持続可能な社会実現と地球環境との共存を図るうえで、製品・サービスの提供という事業活動において環境保全活動を推進することだけでなく、ステークホルダーの皆さまの理解・参加を得ながら連携を深めていくことも重要であると考えています。また、環境保全活動への取り組みについて説明責任を果たすことも企業の社会的責任の一つであると認識しています。

「ヤマハ発動機グループ環境計画2020」では、「企業市民として地域から信頼され、敬愛を受けている」ことを目標として掲げ、外部からの要請に対応した、環境関連の当社の取り組み（エコ通勤やビーチクリーン&子ガメの観察会）についての講演や、CSRレポートなどを通じた情報発信を行うことで、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを深めています。

また、2004年から実施しているエコ通勤活動については、国土交通省が制定するエコ通勤優良事業所認証制度に、12事業所が登録しており、2013年12月継続的な取り組みが認められ、交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰を受賞しました。



## エコポイント制度の導入

「ヤマハ発動機グループ環境計画2020」での環境取り組み姿勢における目標は「グループ全員が高い目標意識で環境取り組みを積極的に行っている」となっています。ヤマハ発動機ではその支援策として2008年1月にエコポイント制度を導入しています。この制度は、エコ通勤への参加や、クリーン作戦などエコ活動をポイント化し、年間ポイントの獲得と活動項目数に応じて、エコ賞品が選べる仕組みになっており、2014年度の取り組み人数は6,825名（制度の対象となる活動に参加した人数）となっています。

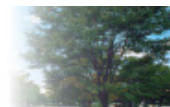


エコ通勤参加の様子



磐田市内清掃ボランティア活動の様子

## 環境コミュニケーション



### イントラネットを活用したエコマインドの醸成

ヤマハ発動機のイントラネットでは、エコ通勤活動やボランティア活動への参加状況の報告をはじめ、ビーチや会社施設周辺などを対象にしたクリーン作戦、近隣地域・社会での環境コミュニケーション活動についての報告をタイムリーに情報発信しており、従業員の環境に対する意識向上や参加意欲の醸成に取り組んでいます。



第36回浜名湖クリーン作戦へのボランティア参加の様子

### 中瀬工場のグリーンカーテン

ヤマハ発動機の中瀬工場では温暖化対策として、恒例となったゴーヤによる「緑のカーテン」を設置。外気温度に対し5度～6度温度を下げる効果があり、節電の効果を得ています。



## ISO26000対照表

中核主題	課題	掲載ページ
組織統治		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CSRの考え方</li> <li>・ CSR基本方針</li> <li>・ コーポレート・ガバナンス</li> </ul>
人権	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 デューデリジエンス</li> <li>2 人権に関する危機的状況</li> <li>3 加担の回避</li> <li>4 苦情解決</li> <li>5 差別および社会的弱者</li> <li>6 市民的および政治的権利</li> <li>7 経済的、社会的および文化的権利</li> <li>8 労働における基本的原則および権利</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様性を活かした職場づくり</li> <li>・ 内部通報制度（ホットライン）</li> <li>・ サプライチェーンでの取り組み</li> </ul>
労働慣行	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 雇用および雇用関係</li> <li>2 労働条件および社会的保護</li> <li>3 社会対話</li> <li>4 労働における安全衛生</li> <li>5 職場における人材育成および訓練</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人材育成／キャリア支援</li> <li>・ 仕事と生活の両立支援</li> <li>・ 職場の安全衛生</li> <li>・ 心と体の健康のためのサポート</li> </ul>
環境	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 汚染の予防</li> <li>2 持続可能な資源の使用</li> <li>3 気候変動の緩和および気候変動への適応</li> <li>4 環境保護、生物多様性および自然生息地の回復</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地球環境とともに</li> <li>・ 環境マネジメント</li> <li>・ CO2排出量の削減</li> <li>・ 環境負荷物質の削減</li> <li>・ 省資源・リサイクル</li> <li>・ 生物多様性の保全</li> <li>・ 当社製品を利用したクリーン活動in浜名湖</li> </ul>
公正な事業慣行	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 汚職防止</li> <li>2 責任ある政治的関与</li> <li>3 公正な競争</li> <li>4 バリューチェーンにおける社会的責任の推進</li> <li>5 財産権の尊重</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サプライチェーンでの取り組み</li> <li>・ 販売店との取り組み</li> </ul>
消費者課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 公正なマーケティング、事実に即した偏りのない情報および公正な契約慣行</li> <li>2 消費者の安全衛生の保護</li> <li>3 持続可能な消費</li> <li>4 消費者に対するサービス、支援、並びに苦情および紛争の解決</li> <li>5 消費者データ保護およびプライバシー</li> <li>6 必要不可欠なサービスへのアクセス</li> <li>7 教育および意識向上</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新たな感動の提供</li> <li>・ お客さま対応／サービス</li> <li>・ 安全運転普及活動</li> <li>・ 世界各地で開催されるYRA（ヤマハライディングアカデミー）</li> <li>・ 輸出入管理の徹底</li> <li>・ 個人情報保護への取り組み</li> </ul>
コミュニティへの参画およびコミュニティの発展	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 コミュニティへの参画</li> <li>2 教育および文化</li> <li>3 雇用創出および技能開発</li> <li>4 技術の開発および技術へのアクセス</li> <li>5 富および所得の創出</li> <li>6 健康</li> <li>7 社会的投資</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会貢献活動の重点領域</li> <li>・ 成長戦略2 マリン世界3兆円市場への挑戦 Made in Mauritania メイド・イン・モーリタニア</li> </ul>